

# 地域看護学

## 1 構 成 員

	平成 15 年 3 月 31 日現在
教授	2 人
助教授	0 人
講師（うち病院籍）	1 人 （ 0 人）
助手（うち病院籍）	2 人 （ 0 人）
医員	0 人
研修医	0 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	17 人 （ 0 人）
研究生	1 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	23 人

## 2 教官の異動状況

- 荒木田美香子（教授）（期間中 現職）  
安梅 勅江（教授）（期間中 現職）  
中谷 芳美（講師）（期間中 現職）  
永井 道子（助手）（期間中 現職）  
青柳 美樹（助手）（期間中 現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 14 年度
( 1 ) 原著論文数（うち邦文のもの）	9 編 （ 8 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
( 2 ) 論文形式のプロシーディングズ数	15 編
( 3 ) 総説数（うち邦文のもの）	6 編 （ 6 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
( 4 ) 著書数（うち邦文のもの）	7 編 （ 7 編）
( 5 ) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編 （ 0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文(当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Anne T., Segel U.: Early child-care and social competence, vocabulary /motor /intelligence development, problem behavior, and adaptation, Early Childhood Education Journal; 30(3), 137-143, 2003.
2. 安梅勅江, 片倉直子, 佐藤泉, 淵田英津子, 西田麻子, 大中敬子: フォーカスグループインタビュー活用の意義 - 「健康日本21」への住民の声の反映に向けて - ,日本保健福祉学会誌: 9(2) ,45-54 , 2003.
3. 安梅勅江: 障害者ケアマネジメントの理念 - interdisciplinary teamwork とエンパワメントに焦点を当てて - , 総合リハビリテーション: 30(12) , 1357-1363 , 2003.
4. 安梅勅江: 長時間保育の子どもへの発達への影響に関する追跡研究 - 2年後の子どもの発達に関連する要因に焦点を当てて - , 社会福祉学: 43(1) , 125-134 , 2002.
5. 佐藤泉, 原田亮子, 片倉直子, 安梅勅江: 地域ケアにおける teamwork 促進要因に関する研究 - interdisciplinary team の形成を目指して - , 日本保健福祉学会誌: 8(2) , 17-28 , 2002.
6. 片倉直子, 佐藤泉, 西田麻子, 安梅勅江: 高齢者の身近な社会とのかかわりへの保健福祉サービスニーズに関する研究, 日本保健福祉学会誌: 8(2) , 41-50 , 2002.
7. 荒木田美香子, 中野照代, 藤生君江, 片桐雅子, 佐藤友子, 山名れい子, 野崎弥生, 仲村秀子, 飯田澄美子. 幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発 - その2 . 育児機能アセスメントツールの有用性の検討 - . 日本地域看護学会誌 2003; 5 (2); 51-60.
8. 荒木田美香子, 中野照代, 藤生君江, 片桐雅子, 佐藤友子, 飯田澄美子: 乳幼児集団健康診査における家族機能・養育機能低下早期発見のためのアセスメントツールの開発と評価. 木村看護教育振興財団, 看護研究収録 2003 ; 10 ; 1-12.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 丸山昭子, 鈴木英子, 安梅勅江: 長時間保育の子どもへの発達への影響に関する研究, 日本保健福祉学会誌: 9(1) , 53-62 , 2002.

インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Anne T.: Social affiliation and healthy longevity: evidence from a twelve year longitudinal study, 34th EBSSRS Symposium, Bergen ( Norway ) , 2002.
2. Anne T.: Risk factors for mental and physical decline: Evidence form five-year longitudinal

study, Neurobiology of Aging, 2002.

3. Fuchida E., Nishida A., Anme T.: Effects by living together: experience from group living, Neurobiology of Aging, 2002.
4. 安梅勅江, 身体機能及び生活機能別の福祉用具と住環境システムの一体的な活用評価法のマトリックス化、長寿科学研究事業研究報告、2003
5. 安梅勅江, 夜間に及ぶ長時間保育に関する5年間追跡実証研究, 子ども家庭研究事業研究報告, 2003
6. 安梅勅江他: 健康浜松 21 報告書, 浜松市, 2003
7. 安梅勅江他: 飛鳥村高齢者保健福祉計画・介護保険計画, 1-110, 2003
8. 安梅勅江他: 健康とびしま 21 報告書, 1-150, 2003
9. Arakida M., Kanamori M., Takahashi S. An Analysis of Factors Related to Mental Health Status and Absenteeism of Junior High School Students, Japanese Journal of School Health. 2003; 44: 75-77.
10. 荒木田美香子, 青柳美樹他: 地域産業保健センターと地域保健行政サービス機関との連携に関する調査報告書, 3-31, 2003
11. 荒木田美香子, 青柳美樹, 高橋佐和子他: 家族機能から見た不登校の予防と早期発見に関する研究, 科学研究費補助金研究報告書, 2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中野照代, 荒木田美香子, 藤生君江, 片桐雅子, 佐藤友子, 山名れい子, 野崎弥生, 仲村秀子, 飯田澄美子, 幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発 - その1 .1歳6ヶ月児・3歳児健診における問診票項目の全国実態調査 - ,日本地域看護学会誌. 2003;5(2);95-100.
2. 藤生君江, 中野照代, 荒木田美香子, 片桐雅子, 佐藤友子, 山名れい子, 野崎やよい, 飯田澄美子. 幼児を持つ母親の就業状況別家族機能とソーシャルサポート. 聖隷クリストファー大学紀要. 2003;11; 85-99.
3. 青柳玲子, 荒木田美香子, 田口良子, 中島玲子, 鈴木恒子, 谷田久美子. 就労者の健康づくりを支援する保健師活動, 平成14年度職能集会検討資料, 日本看護協会, 2003.

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 安梅勅江: エンパワメントと多職種連携, 公衆衛生: 66(4), 2002.
2. 安梅勅江: 保育環境と子どもの発達, 遊育: 20, 2002.
3. 安梅勅江: 子育て支援の質評価, 遊育: 3, 2003.

4. 安梅勅江：高齢者虐待の発生予防及び援助方法に関する学際的研究，長寿科学，2003.
5. 安梅勅江：当事者主体のチームケアとエンパワメントに基づくケアマネジメントを，Home Care Medicine: 4(4)，2003.
6. 安梅勅江：ジャングルにおける子育て，Mother and child well being around the world: 54，2003.  
インパクトファクターの小計 [ 0.00 ]

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

#### （４）著 書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 安梅勅江，障害児福祉サービス，母子保健サービス，高橋重宏編，子ども家庭福祉論，建白社，2003.
2. 安梅勅江：バリアフリーデザイン，木村哲彦編，生活環境論，医歯薬出版，31-237，2002.
3. 安梅勅江：福祉用具情報支援，高山忠雄編，高齢者・障害者のための福祉用具活用の実務，第一法規，2002.
4. 安梅勅江：リハビリテーションセンター，社会福祉学がわかる，アエラムック，朝日新聞社，74-77，2003.
5. 安梅勅江：ぼけを予防する - 生のおしゃれとエンパワメント - ，だからぼける，静岡新聞社，40-45，2003.
6. 荒木田美香子：地域看護学 地域看護学（保健指導，健康教育）地域看護学，星旦二監修 2003年度出題基準項目別保健師国家試験問題，メディカ出版，2003
7. 中谷芳美：地域看護学 「母子保健指導」「学校保健指導」の覚えておきたい重要事項，医学書院看護出版部編，2003年度版保健師国家試験問題 - 解答と解説 - ．医学書院．

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

#### （５）症例報告

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成 14 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 14 年度
(1) 文部科学省科学研究費	4 件 (600 万円)
(2) 厚生科学研究費	2 件 (400 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1 件 (600 万円)
(4) 財団助成金	2 件 (60 万円)
(5) 受託研究または共同研究	7 件 (610 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	2 件 (50 万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

安梅勅江（代表者）萌芽的研究 子どもの発達・健康等の 6 年間追跡調査に基づく長時間保育サービスの質評価指標の開発 120 万円（新規）

中谷芳美（代表者）荒木田美香子（分担者）青柳美樹（分担者） 基盤研究（C）(2)「地域高齢者の QOL を指標にした地域看護活動の評価方法の開発」220 万円（新規）

中谷芳美（分担者） 基盤研究（B）(1)「在宅ケア軽度要支援高齢者の日常生活行動の自立度向上に有効なケアプランの国際比較」30 万円（新規）

荒木田美香子（代表者）中谷芳美（分担者）青柳美樹（分担者）基盤研究 C（2）「幼児・思春期を対象としたコミュニティベースの育児サポートプログラムの有用性の研究」230 万（新規）

##### (2) 厚生科学研究費

安梅勅江（代表者）長寿科学総合研究事業 「身体機能及び生活機能別の福祉用具と住環境システムの一体的な活用評価法のマトリックス化」 200 万円（継続）

安梅勅江（代表者）子ども家庭総合研究事業 「夜間に及ぶ長時間保育に関する 5 年間追跡実証研究」 200 万円（継続）

##### (3) 他政府機関による研究助成

安梅勅江（分担者）シニアプラン開発機構 「少子化の進行要因の分析及び各世代間における子育て支援方策に関する調査研究」 代表者 北海道大学 金子 勇 600 万円（新規）

##### (4) 財団助成金

安梅勅江（分担者）日本住宅設備システム協会 「バリアフリー住宅の設計指針の標準化に関する研究」 代表者 東京家政学院大学 岩井一幸 10万円

荒木田美香子（分担者）日本看護協会 「就労者の健康づくりを支援する保健師活動のあり方の検討」50万円

(5) 受託研究または共同研究

安梅勅江（代表者） 浜松市 「健康浜松 21」 240万円

安梅勅江（代表者） 飛島村 「健康とびしま 21」 100万円

安梅勅江（代表者） 飛島村 「とびしま介護保険計画」 100万円

安梅勅江（分担者） EU Research Project "Old Age and Autonomy: The Role of Services and Intergenerational Family Solidarity (OASYS Project)" 代表者 Hifa Aging Research Center (Israel) Ariela Lowenstein 50万円

安梅勅江（分担者） National Child Protective Services Project "Child Development and Home Environment" 代表者 University of Arkansas (USA) Robert Bradley 50万円

安梅勅江（分担者） Jonkoping University Research Project "Care of Older People developing a distance course on the internet" 代表者 Jonkoping University(Sweden) Cecilia Henning 50万円

荒木田美香子（分担者）豊岡村 「就労者の健康二一ズの検討」20万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	4件
(2) シンポジウム発表数	3件	2件
(3) 学会座長回数	0件	5件
(4) 学会開催回数	0件	2件
(5) 学会役員等回数	3件	5件
(6) 一般演題発表数	2件	

1) 国際会議等開催・参加：

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Anne T.: Social affiliation and healthy longevity: evidence from a twelve year longitudinal study, 34th EBSSRS, Bergen (Norway), August 2002.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Anne T.: Healthy longevity for all: evidence from five years follow-up study, Valencia Forum, Valencia (Spain), April 2002.

2. Anme T.: Predictors of Mortality: Ten years follow-up study in Japan, The 55th Annual Meeting of Gerontological Society of America, Boston (USA), November 2002.

3. Arakida M., Aoyagi M. Safety for patients in home visit nursing. International Conference of Risk Management for Preventive Medicine, Tokyo ( Japan ) ,March,2003.

#### 4) 一般発表

##### ポスター発表

1. Anme T.: Risk factors for mental and physical decline: Evidence form five-year longitudinal study, Neurobiology of Aging, July 2002, Stockholm (Sweden)
2. Fuchida E., Nishida A., Anme T.: Effects by living together: experience from group living, Neurobiology of Aging, July 2002, Stockholm (Sweden)

#### ( 2 ) 国内学会の開催・参加

##### 1) 学会における特別講演・招待講演

1. 安梅勅江 (2003) エンパワメントと多職種連携, 第2回仙台ケアマネジメント学会, 2月, 仙台
2. 安梅勅江 (2002) グループインタビューの活用法, 第3回地域保健研究会, 12月, 鳥取
3. 安梅勅江 (2002) 健康日本21における質的研究法の活用, 第3回保健福祉研究会, 9月, 名古屋
4. 安梅勅江 (2002) 子育て支援の質向上に向けて, 第21回夜間保育研究会, 11月, 東京

##### 2) シンポジウム発表

安梅勅江 (2002) ケアにおける質的研究法の展開 - フォーカス・グループインタビューの分析に焦点を当てて - , 第22回日本看護科学学会, 12月, 東京

荒木田美香子 (2002) 他 地域看護学の専門性を高める大学院教育方向性, 第5回日本地域看護学会, 6月, 高知

##### 3) 座長をした学会名

安梅勅江 (2002) 第15回日本保健福祉学会 12月 青森

安梅勅江 (2002) 第22回日本看護科学学会 12月 東京

中谷芳美 (2002) 第61回日本公衆衛生学会 10月 埼玉

荒木田美香子 (2002) 第49回日本学校保健学会 9月 北海道

荒木田美香子 (2002) 第6回日本健康福祉政策学会学術大会 12月 静岡

##### 4) 主催する学会名

安梅勅江 (2002) 子育て支援における養育環境評価研究会 11月 浜松

安梅勅江 (2002) 国際地域ケアシステム研究会 11月 浜松

5) 役職についている学会名とその役割

安梅勅江 International System Sciences in Health Social Services for Elderly and Disabled  
理事

安梅勅江 International network for the prevention of elder abuse 理事

安梅勅江 日本保健福祉学会 理事

荒木田美香子 日本産業衛生学会東海地方会 理事

荒木田美香子 International Risk Management for Preventive Medicine 評議委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	4件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	5件
(2) 国内共同研究	6件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

Ariela Lowenstein (Hifa Aging Research Center, Israel), Old Age and Autonomy: The Role of Services and Intergenerational Family Solidarity (OASYS Project)

Robert Bradley (Univ. Arkansas, USA), Comparative study for child care environment

Cecilia Hening (Jonkoping University), Care of Older People developing a distance course on the internet

Duncan Boldy (Univ. Curtin, Australia), Donna Benton (Univ. Southern California, USA), International professional skills development

Uma Segel (Univ. Missouri, USA), Comparative study for child care and development

(2) 国内共同研究

牛島廣治(東京大学) 在日外国人の母子保健システム研究

汐見稔幸(東京大学) 乳児保育質評価指標開発研究

大橋謙策(日本社会事業大学) 目黒区地域保健福祉システム研究

金子勇(北海道大学) 少子化の進行要因の分析及び各世代間における子育て支援方策に関する調査研究

岩井一幸(東京家政学院大学) バリアフリー住宅の設計指針の標準化に関する研究

河野啓子(東海大学) 産業看護診断研究



## 10 産学共同研究

	平成 14 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

荒木田美香子 東海大学教育研究所 Teaching Award March 2003

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 地域ケア専門職の専門性評価国際比較研究

本研究は、国際的に共通指標として活用可能な地域ケア専門職のケアマネジメント評価法の開発を目的としている。本年度は日本とオーストラリアにてケアマネジメントにおける連携に焦点をあてた評価について、フォーカスグループインタビュー法を用いた質的研究により、「基本技術」、「マネジメント技術」、「評価技術」の3領域別に具体的な指標項目を作成した。

(安梅勅江)

### 2. 健康長寿への影響要因研究

本研究は、地域住民の長期にわたる追跡調査により健康長寿への影響要因を明らかにし、地域ケアの展開方策につき科学的な根拠を得ることを目的としている。対象は愛知県T村(人口5,000名)の全住民であり、健康診査、質問紙調査、面接調査、訪問調査、介入評価を含む総合的なプロジェクトを構成し、経年変化を評価している。本年度は13年後の評価を実施し、社会とのかかわりや積極的な社会貢献の意識が、性別、年齢、日常生活動作、罹患状況等の影響を除外した後も強く予後に関連することを明らかにした。

(安梅勅江)

### 3. 地域における子育て支援 - 子どもの発達保障のための環境評価 -

本研究は、少子高齢時代の多様化する子育て支援ニーズに対応するため、子どもの発達保障からみた環境整備の具体的な方策を明らかにすることを目的としている。対象は全国の子育て支援を利用する子どもと保護者4,000組であり、質問紙調査、面接調査、発達評価、遊び観察等を毎年追跡的に実施し、子どもの発達に影響を与える複合要因の強度を測定している。本年度は4年後の影響要因の評価を実施し、子育て支援における環境整備として、家庭における子どもとのかかわり促進のための機会の提供、相談機能等育児サポートの重要性を明らかにした。

(安梅勅江)

### 4. ユニバーサルデザイン研究

本研究は、WHOのICIDH-2(国際障害分類第2版)に基づき、Participationを促進するための総合的な環境整備に向け科学的な根拠を得ることを目的としている。本年度は住宅設備におけるユニバーサルデザイン規格の標準化を図るため、国際規格との整合性を図りながらJIS規格策定を完成した。

(安梅勅江)

#### 5. 地域エンパワメント研究

本研究は、地域住民の自己効力及び問題対処の力量を高めるエンパワメントに向けた支援の方法論を明らかにすることを目的としている。本年度は6つの自治体において「健康日本21」策定のための住民及び関連支援機関のエンパワメントに注目した量的・質的調査の複合分析を行い、住民主体の施策策定のモデルを構築した。

(安梅勅江)

#### 6. 中学生の親を対象にしたカウンセリング講座の効果

本研究では、細江町と豊岡村の中学生の親を対象に、カウンセリング能力を高めるための講座を行い、評価尺度等を用いて介入前後の比較を行い、効果を検証した。講座は、カウンセリングの基礎知識に関する講義、構成的グループ・エンカウンターの種々のエクササイズ、アサーション及び傾聴トレーニング等を取り入れ、中学生の親に合わせた内容に構成した。この介入の前後で、カウンセリング能力を高める因子と考えられる親自身のメンタルヘルス、自尊感情、子供への満足度等について変化をみた。客観的評価尺度として、The General Health Questionnaire(GHQ-28)、自尊感情尺度、エゴグラムを使用した。

結果において、中学生の親に対して、カウンセリング講座を行うことにより、親自身のうつ状態を改善し、自尊感情を高め、子供を肯定的にとらえる効果があることが示唆された。

(永井道子、荒木田美香子)

#### 7. 中学生の精神的不調の変化とその予測要因に関する研究

中学生の精神的不調の変化とその予測要因を把握するために、中学生1,010名を対象として、3年間の縦断的調査を行なった。回答者は非回答者より欠席に数が少なく、精神的にも健康な群と考えられるが3年間継続して精神的不調群に分類されたものは17%あった。精神的不調群はストレス反応が多く、また1・2年次の欠席日数が多かった。反対に自尊感情、親や教師の支援感、首尾一貫感覚が低かった。また、その予測要因には自尊感情の低さが基本にあり、それに加えて把握可能感の低さや、日常生活のストレスの多さが要因として考えられた。また、女子の場合、自尊感情が平均点以上あっても、日常生活のストレスの多い場合精神的不調が継続する場合が認められた。中学生のメンタルヘルス不調の予防的対策を考える上で、自尊感情に注目し、スクリーニングとして活用することの可能性が示唆された。

(荒木田美香子)

#### 8. 小規模事業所と地域間の連携に関する研究

従業員50人以下の健康管理を援助するためにおかれている地域産業保健センターと保健所や市町村保健センターなどの地域保健行政サービス機関との連携の現状を把握し、今後の連携の活性化の方策を検討する資料を得るために、全国347ヶ所の地域産業保健センターに郵送による質問紙調査を実施した。現在、地域保健と何らかの連携を取っているところは30%程度であった。保健所とは

連絡会議や共同研究，市町村保健センターとは健康教室の紹介で連携を行っている割合が高かった。医師や看護職が回答者の場合は，地域保健との連携の必要性を強く感じていた。地域保健と連携を取っている地域産業保健センターは他の地域産業保健センターとの連携を積極的に行っており，かつ，精神健康相談を行っているところであった。地域保健との連携を活性化するためには，コーディネーターとして保健師の活用や能力向上支援、精神保健などへの地域保健からの支援などを強化することが必要と考えられた。

(荒木田美香子)

### 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

### 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

研究の独創性、国際性、継続性、応用性は下記の通りである。(安梅勅江)

1. 13年間にわたる子どもから高齢者までの全地域住民を対象とした健康維持・増進に関する詳細なフィールド追跡研究は，日本ではほとんど存在しない。また子どもの発達への影響要因について、5年にわたり全国規模で追跡調査した研究は本邦初である。これらの経年的な成果から抽出された Social Affiliation Model は極めて独創性の高いものと評価されている。
2. さらに EU 研究事業の OASYS Project に参加し，日本，イギリス，ドイツ，イスラエル，ノルウェー，スペイン，イタリアの7カ国における文化背景比較から，formal care と informal care の役割分担に関する国際的な評価指標作成，国際専門性評価指標の共同研究に参加し，著書の出版等，地域ケア研究において，成果を世界に向け発信し各国研究者と「知の共有」を図っている。
3. これらの成果は，国際機関をはじめ，日本のユニバーサルデザイン JIS 規格，厚生労働省の子育て支援重点施策，高齢者の雇用促進施策への反映，自治体の「地域保健福祉計画」，「健康日本 21」策定等，個人及び地域の Well Being の実現に有効に活用されている。

### 15 新聞，雑誌等による報道

1. 安梅勅江 長時間保育の影響，NHK，2002年11月17日
2. 安梅勅江 浜松市障害者計画，健康浜松 21，静岡新聞，2003年2月13日
3. 安梅勅江 浜松市障害者計画，健康浜松 21，中日新聞，2003年2月13日
4. 鈴木志津江 思春期のメンタルヘルス，中日新聞，2002年12月20日
5. 荒木田美香子 中学生へのピアカウンセリング，中日新聞，2002年8月20日